

第6章 保健事業の実施評価・PDCAサイクル

保健事業を客観的に評価するための指標を開発 —効果の「見える化」を实践— (日産自動車健康保険組合)

○取り組みの背景および目的

医療費や高齢者医療に対する各種拠出金の増加により、健保組合財政は年々悪化しており、保健事業費として使える予算も縮減を迫られており、非常に厳しい状況となっている。そのため、保健事業に対して、その事業価値を判断し、優先順位をつけ、効果的かつ効率的な保健事業を実施することが求められている。長期的には、健康の維持・向上を図ることで医療費を削減させることを目指しているが、それを短期間で、医療費削減効果を示すことは難しい。そこで、日産自動車健康保険組合では、保健事業の効果を客観的に示す独自の指標として「医療費貢献指標」を開発し、事業評価や事業主への保健事業に関する説明等に用いることとした。

○取り組みの内容

医療費貢献指標について

保健事業ごとに、加入者の健康増進・疾病予防を目的とした保健事業の「機能（貢献度）」と保健事業の運営にかかる「コスト（保険料）」との対比から、保健事業の「価値（医療費貢献指標）」を検証する。このことにより、保健事業の優先順位づけおよび改善の定量的評価を行い、より効果的な事業運営で保険者機能の向上を図っている。

保健事業の「価値」および「機能」、「コスト」は、以下の式で算出した。

$$\text{価値（医療費貢献指標）} = \text{機能} / \text{利用者1人当たり費用（コスト）}$$

$$\left(\begin{array}{l} \text{【機能】} = \text{生涯医療費} \times \text{効果度} \\ \text{【コスト】} = \text{保健事業ごとの年間費用実績} / \text{利用者数} \end{array} \right)$$

生涯医療費：保健事業に求められる効果は、健康維持や病気の早期発見・早期治療だが、医療費の抑制も重要である。しかし、健保組合として、全疾病に対して予防を含めた何らかの対策を行うことは不可能である。そのため、医療費抑制に有効であると思われる4疾病（生活習慣病・がん・歯科・メンタル）を生涯医療費のベースとした（表1）。

表1. 疾病ごとの生涯医療費

疾病	生涯医療費*
生活習慣病	3,436,241円
がん	1,283,068円
歯科	944,168円
メンタル	748,163円

*「厚生労働省平成18年度国民医療費の概況」のデータをもとに、45-64歳の1人当たり医療費×20と65歳～74歳の1人当たり医療費×10を合算した医療費を用いることとした。

【事例 27】

効果度：実施する保健事業の内容から加入者に対して期待できる効果を「定着レベル」「行動変容レベル」「動機づけレベル」「知識取得レベル」「情報発信レベル」5段階にレベル分けし、レベルに応じた独自の効果度を設定した（表2）。

表2. 効果度

効果度レベル	効果度
定着レベル	1
行動変容レベル	1/10
動機づけレベル	1/100
知識取得レベル	1/1000
情報発信レベル	1/10000

※各効果度レベルの判定は、個人判定ではなく、複数名（常務理事、常務理事付、事務長、各部部长等）で協議のうえ、決定する。

例1) 健診結果のお知らせ（40歳以上の加入者へ通知）

▶▶ 健診結果をお知らせします。

検査項目	今回結果		前年	2年前	3年前	健康指導の目安 (※保健指導あり)	病院へ行く目安 (※健康指導あり)
	H24-03-13	判定					
身長 (cm)	160		160.3	160.3	160.6		
体重 (kg)	53.1		54.9	54.9	54.8		
BMI	20.7		21.3	21.3	21.2	25以上	
腕囲 (cm)	77.0		77.5	77.5	78.0	男性 85以上 女性 90以上	
収縮期血圧	129		127	127	134	130以上	160以上
拡張期血圧	87	●	76	76	86	85以上	100以上
血糖 (空腹時)	101	●	124	124	94	100以上	130以上
HbA1c						5.2以上	6.5以上
中性脂肪	171	●	122	122	89	150以上	450以上
HDLコレステロール	58		55	55	62	30以下	30以下
LDLコレステロール	166	●	147	147	178	120以上	180以上
AST (GOT)	19		22	22	26	31以上	100以上
ALT (GPT)	23		33	33	50	31以上	100以上
γ-GTP	35		33	33	52	51以上	300以上
尿糖	(-)		(-)	(-)	(-)	(+)	(++)
尿たんぱく	(-)		(-)	(-)	(±)	(+)	(++)

● 保健指導を受ける目安を超えています
● 病院へ行く目安を超えています

▶▶ 健保からのアドバイス

日産 太郎さんは質問票の回答から **服薬者** に該当します。
かかりつけ医とよく相談しながら、処方されたお薬を正しく服用しましょう。

また、生活習慣の改善も必要です。
お薬だけではなく、かかりつけ医のアドバイスを受けながら、身体に負担をかけずに続けられる食事や運動の改善目標を設定してみませんか。

生活習慣病発症リスク

服薬者 高

受診勧奨者

保健指導対象者

基準オーバー者

健康者 低

健診データ不足者

生活習慣病(発症)へのリスクが高くなる原因

不規則な生活

運動不足

飲酒・喫煙

食生活

過労・ストレス

これらが深く関わっているとされています

あなたにあった改善行動をナビゲート

詳しくは再発のリーフレットをご覧ください
知りたい! 自分WEB

検査結果や健康に関する不安・心配は、電話相談をご活用ください。

☎ 0120-74-2355

相談電話料 無料

専門スタッフ

24時間対応

※再発、PH-S、WEBでのご利用は、日産健康 H.P. をご覧ください。

リスクチャート

○ 日産健保同世代の平均値
★ 今回のあなたの結果

■ 病院に行く目安
■ 保健指導の目安
■ 基準値内
□ 健診データなし

図1. 健診結果のお知らせ①

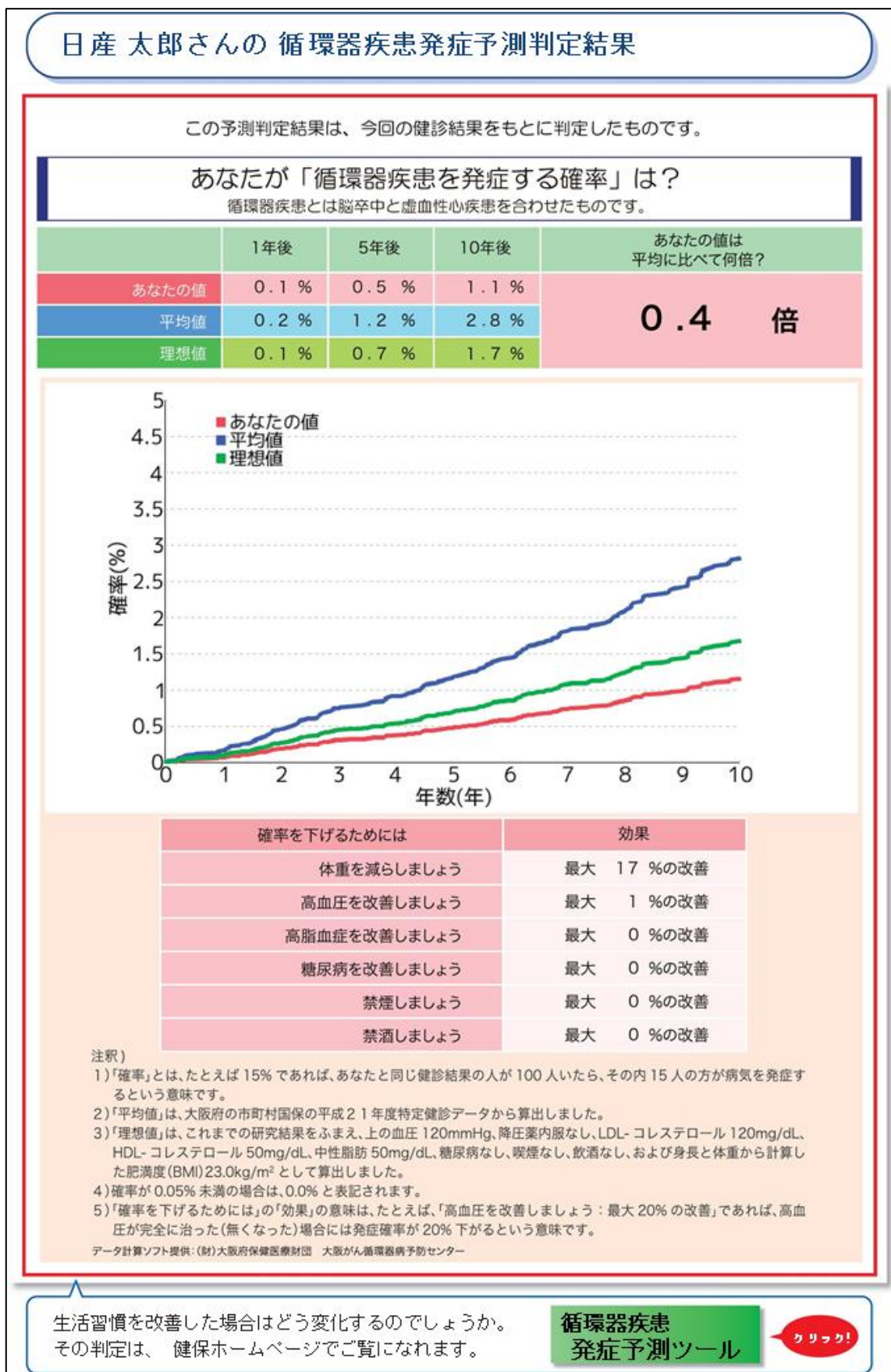


図2. 健診結果のお知らせ②

【事例27】

健診結果のお知らせの保健事業価値の判定

【機能】生涯医療費×効果度

生涯医療費		効果度レベル	機能	効果度レベル判定理由
生活習慣病	3,436,241円	動機付け (1/100)	34,362	健診結果の時系列掲載（P2上部）や受診者にあった生活習慣改善行動のナビゲート（P3中央）、また、検査結果から循環器疾病発症予測（P4）等生活習慣改善の動機付けになる情報提供を行っている。
がん	1,283,068円	動機付け (1/100)	12,830	人間ドック、レディースドックの受診履歴を掲載（P2中段）
歯科	944,168円	動機付け (1/100)	9,441	歯科検診の受診履歴を掲載。（P2中段）
メンタル	748,163円	知識取得 (1/1000)	748	健康に関する不安や心配ごとの電話相談を案内。（P3下段）
		機能合計	57,381	

【コスト】保健事業ごとの年間費用実績／利用者数

年間費用実績(千円)	13,000
利用者数(人)	52,000
利用者一人当たり(円)	250

【価値（医療費貢献指標）】

$$\frac{\text{保健事業ごとの機能} : 57,381}{\text{利用者1人当たり費用} : 250} \times 100 = 22,952$$

例2）健保カレンダー配布（被保険者へ配布：廃止）

カレンダーの保健事業価値の判定

【機能】生涯医療費×効果度

生涯医療費		効果度レベル	機能
生活習慣病	3,436,241円	情報発信 (1/10000)	343
がん	1,283,068円	情報発信 (1/10000)	128
歯科	944,168円	情報発信 (1/10000)	94
メンタル	748,163円	情報発信 (1/10000)	74
		機能合計	639

【コスト】保健事業ごとの年間費用実績／利用者数

年間費用実績(千円)	7,000
利用者数(人)	70,000
利用者一人当たり(円)	100

【事例 27】

【価値（医療費貢献指標）】

$$\frac{\text{保健事業ごとの機能：639}}{\text{利用者1人当たり費用：100}} \times 100 = 639$$

○効果

疾病予防対策を企画する際に、保健事業の価値（医療費貢献指標）を年々向上させることで、保健事業費を削減したにも関わらず、メタボの人の割合は減少している（表3，図3）。

表3. 各種指標の経年変化

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
医療費貢献指標	327,173p (±0)	327,173p (±0p)	361,281p (+34,108p)	397,584p (+70,411p)	473,604p (+146,431p)
保健事業費／被保険者・年	12.5千円	8.8千円 (-3.7千円)	9.3千円 (-3.2千円)	8.2千円 (-4.3千円)	8.0千円 (-4.5千円)
メタボ率 (40歳以上被保険者)	33.8	33.2 (-0.6)	31.5 (-2.3)	32.4 (-1.4)	28.6 (-5.2)

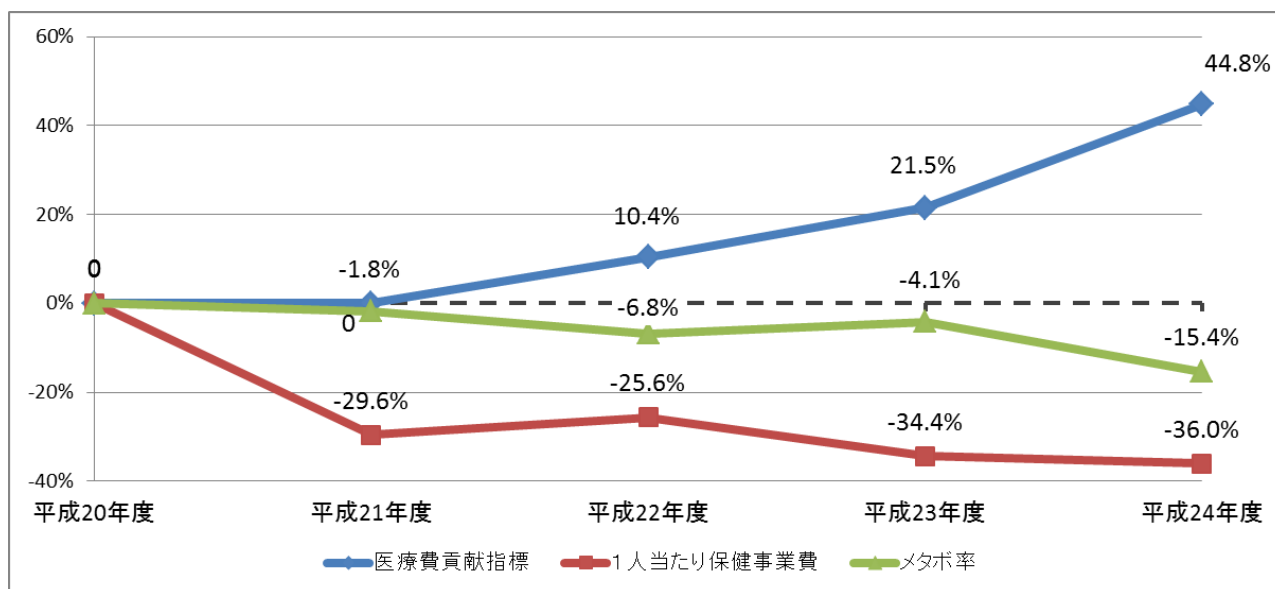


図3. 医療費貢献指標と1人当たり保健事業費およびメタボ率との関係性

【事例 27】

○事業評価

効果

定量化することにより、活動の優先順位（重みづけ）ができる。

問題点

当健保組合で医療費抑制に有効であると思われる4疾病（生活習慣病・がん・歯科・メンタル）を対象に事業を実施しているため、それ以外の活動の評価ができない（例：柔道整復療養費の適正な受診に向けての活動）。また、継続している保健事業で貢献指標を向上させる仕組みが非常に難しい。

○健保組合情報

- ・ 被保険者数（平成 25 年 5 月末現在）：69,331 名（男性 88%、女性 12%）（平均年齢 42.9 歳）
- ・ 加入者数（平成 25 年 5 月末現在）：147,099 名
- ・ 事業所数（平成 25 年 5 月末現在）：68
- ・ 保険料率（平成 25 年 3 月末現在）：80.2‰
- ・ 経常支出合計（平成 24 年度決算）：約 383 億円（うち保健事業費：1.8% 約 6.9 億円）
- ・ 業態：運送用器具